

帯広市

肝炎ウイルス検診のご案内

B型肝炎・C型肝炎ウイルスは、肝硬変・肝がんの原因となるウイルスです。

肝臓は、病気にかかってもすぐには症状が出にくいことから、「沈黙の臓器」と呼ばれています。

40歳以上の方は、一度、自覚症状がなくても肝炎ウイルス検診を受けましょう。

肝臓のはたらき

肝臓は、人の体の中で最も大きい臓器であり、体重の1/50を占めています。以下のようなはたらきがあり、人が生きていくために重要な機能を担っています。

- ・栄養素を利用しやすい形に変え、蓄える（代謝）
- ・アンモニアやアルコールなどの有害な物質を無毒化する（解毒）
- ・脂肪の消化・吸収を助ける胆汁をつくる など

この肝臓に炎症が起こり、細胞が広い範囲にわたって壊れた状態になるのが肝炎です。

ウイルス性肝炎とは



肝炎の原因は、アルコールや薬物、自己免疫の異常などさまざまですが、日本では、ほとんどがウイルス性によるものです。

肝炎の原因となるウイルスにはA・B・C・D・E型がありますが、このうちB型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスが慢性肝炎の原因となります。

《B型肝炎とC型肝炎の違い》

- ・C型肝炎は、B型肝炎に比べ、慢性肝炎、肝硬変、肝がんといった病気になりやすい
- ・B型肝炎は感染力が強い

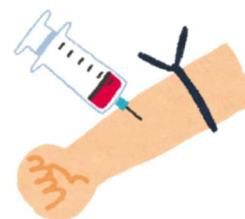
日本における肝炎ウイルスの持続感染者は、B型が110~120万人、C型が90~130万人、合計で200万人以上存在すると推定されています。自覚症状がないことが多いことなどによって、本人が気づかいうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。

肝炎ウイルスの主な感染経路

- 肝炎ウイルスが含まれている血液の輸血等を行った場合
- 注射針、注射器を肝炎ウイルスに感染している人と共用した場合
- 肝炎ウイルス陽性の血液を傷のある手で触ったり、針刺し事故を起こしたりした場合
- 肝炎ウイルスに感染している人が使用した器具を適切な消毒などを行わずそのまま用いて、入れ墨やピアスの穴あけなどを使用した場合
- 肝炎ウイルスに感染している人と性交渉をもった場合（主に B 型肝炎）

➡ B 型・C 型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、

血液検査でわかります



感染がわかったら

ウイルス性肝炎の症状は人それぞれです。治療を受ける必要がない場合もあれば、すぐに本格的な治療が必要な場合もあります。

B 型・C 型肝炎ウイルスに感染している、または感染の可能性が高いことがわかったら、専門の医療機関で精密検査を受け、医師とよく相談しながら適切な治療や定期検査を続けることが大切です。

B 型・C 型肝炎ウイルスは、主に血液を介して感染します。歯ブラシ、カミソリなどを他人と共用しない、血液が付着したものは自分でしっかりくるんで捨てる、などを心がけましょう。

B 型肝炎ウイルスについては、性行為でも感染の可能性があります。

こんなことでは感染しない



40歳以上(年度末年齢)で、市の肝炎ウイルス検診を受けたことのない方は、検診を受けることができます。感染の心当たりがなくても検診を受けましょう。

～肝炎に関する相談、お問合せ先～

帯広市健康推進課（保健福祉センター内）

<検診に関すること>

Tel 2 5 - 9 7 2 0

<検診結果・疾患に関すること、健康相談>

Tel 2 5 - 9 7 2 1